



ボランティア等に対する 石綿ばく露防止教育の実施状況

1. 青森県	1 頁～
2. 岩手県	3 頁～
3. 宮城県	5 頁～
4. 福島県	16 頁～
5. 茨城県	18 頁～
6. 栃木県	21 頁～
7. 千葉県	23 頁～

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

	青森県	弘前市	三沢市
実施月日	—	3月31日～8月31日 計24回	6月22日
対象人数	—	延べ1,065名	59名
うちマスク 持参者数	—	不明	59名
うちマスク 配布者数	—	0名	0名
教育内容	住民及びボランティアに対して、HPにより、被災地で活動する際の防じんマスクの着用を注意喚起している。	ボランティアに対しては、以下のことにより防じんマスク着用の重要性などについて周知・注意喚起等を行っている。 ・HP等による周知 ・ボランティア受付の際の周知(社会福祉協議会と連携) ・移動中のボランティアバス車中での説明実施 など	防塵マスクを各自持参し、着用することを周知。
教育者	—	市職員、大学ボランティアセンター職員等	市職員

2. 今後の実施計画

実施月日	青森県		
教育内容	引き続き、HPにより注意喚起を行う。		
教育者	—		

都道府県名 青森県

市町村名 青森市

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	5/13	9/22
対象人数	—	—
うちマスク 持参者数	—	—
うちマスク 配布者数	—	—
教育内容	庁内LANにて文書掲載(市役所全部署) 防じんマスクについて ・各自で持参すること ・マスクの種類 ・正しい着用方法	青森市社会福祉協議会にボランティア保険申込者に対し、チラシ配布を依頼 防じんマスクについて ・各自で持参すること ・マスクの種類 ・正しい着用方法
教育者	—	—

2. 今後の実施計画

実施月日		
教育内容		
教育者		

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	4月・5月	6月・7月	8月・9月
対象人数	80558名	88591名	27229名
うちマスク 持参者数	(約半数)	(約半数)	(約半数)
うちマスク 配布者数	(約半数)	(約半数)	(約半数)
教育内容	防じんマスク着用について、ホームページ掲載及び出発前のオリエンテーションにおいて以下の点について注意喚起 <ul style="list-style-type: none"> ・持参を呼び掛け ・正しい着用方法 	防じんマスク着用について、ホームページ掲載及び出発前のオリエンテーションにおいて以下の点について注意喚起 <ul style="list-style-type: none"> ・持参を呼び掛け ・正しい着用方法 (気温に配慮し、活動内容によって防じん・通常を使い分けること) 	防じんマスク着用について、ホームページ掲載及び出発前のオリエンテーションにおいて以下の点について注意喚起 <ul style="list-style-type: none"> ・持参を呼び掛け ・正しい着用方法 (気温に配慮し、活動内容によって防じん・通常を使い分けること)
教育者	社会福祉協議会(県及び市町村)災害ボランティアセンター-職員	社会福祉協議会(県及び市町村)災害ボランティアセンター-職員	社会福祉協議会(県及び市町村)災害ボランティアセンター-職員

2. 今後の実施計画

実施月日	10月以降随時	9月30日	
教育内容	防じんマスク着用について、ホームページ掲載及び出発前のオリエンテーションにおいて以下の点について注意喚起 <ul style="list-style-type: none"> ・持参を呼び掛け ・正しい着用方法 今後は活動内容も生活支援ニーズへと移行していくことから、内容を見ながら適宜対応予定。	<ul style="list-style-type: none"> ・アスベストについて ・防じんマスクの正しい着用について (NPOが出席する会議における周知) 	
教育者	社会福祉協議会(県及び市町村)災害ボランティアセンター-職員	岩手県職員	

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	該当なし	
対象人数		
うちマスク 持参者数		
うちマスク 配布者数		
教育内容	○実施実績なし	
教育者		

2. 今後の実施計画

実施月日	10月15日	10月25日
教育内容	当市では、瓦礫処理等に従事するボランティア等がないことから実施予定はありませんが、注意喚起は今後行う予定です。	同左のとおり。
教育者		

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

本市においては津波により建物が破壊された地域は、本市ががれき撤去作業を委託した業者及び撤去作業に立ち会う地域住民以外は立ち入り禁止としており、ボランティアがその地域に立ち入ることはございません。

委託業者向けには石綿曝露防止にかかる通知や講習会の開催により飛散防止・曝露防止の徹底を図り、立会い市民に対してはがれき撤去作業をパトロールする市職員が直接防じんマスクを配布しております。

また、これ以外の地域で活動するボランティアに対しては、津波災害ボランティアセンターに防じんマスクを配布し、その使用方法についてチラシ配布やポスター掲示による周知を実施しております。あわせて、ボランティアセンターの職員には受付時にボランティアに対するアスベストの危険性や防じんマスクの使用方法等に関する教育を行うよう依頼しております。

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

石巻市社会福祉協議会では、毎日、ボランティアを送り出す際に下記の通り説明している。

ボランティア活動上の留意事項(抜粋)

被災地では、日常的に粉塵が舞っており、呼吸器障害への注意が必要となっています。

特に、がれきや土砂の撤去・建物の解体現場では大量の粉塵が発生し、その中には、人体に危険なアスベスト(石綿)が含まれている場合がありますので被災地でボランティア活動を行う場合には、マスクを着用すること、また、屋外に長時間いる場合や粉塵が多く発生する作業現場では、多層式マスク(防じんマスク)を必ず着用してください。

- * 送り出しの際、職員からボランティアに注意事項として、毎朝、留意事項の一つとして説明しています。

女健第 503 号

平成 23 年 9 月 28 日

宮城県環境生活部長 殿

女川町健康福祉課長

(公印省略)

ボランティア等に対する石綿ばく露防止教育の実施について(報告)

このことについて、本町においては震災直後から女川町社会福祉協議会がボランティアセンターを立ち上げ、復興・復旧作業に今日まで活動しております。

担当課としては、作業に従事する際は防塵マスク等の着用を義務付け、必要に応じてはヘルメット等を着用する等、安全に関しての指導を行ってきたところです。

しかしながらボランティアセンターに登録せずにボランティア活動をしている団体・個人等もあり、全体を把握するのは困難な状況にあります。

今後は、ボランティアセンターに対する更なる指導を行うとともに、活動におけるマスク等着用の声掛け等を実施し、安全等に対する徹底を行っていきたいと思います。

都道府県名 宮城県

市町村名 多賀城市

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	3月11日～9月20日	
対象人数	約18000人	
うちマスク 持参者数	約6000人	
うちマスク 配布者数	約12000人	
教育内容	マスクを持参していない人にはマスクを配布し、作業前のオリエンテーションで必ずマスクを着用するよう促した。	
教育者	社会福祉協議会職員	

2. 今後の実施計画

実施月日	随時	
教育内容	マスクを配布し、作業前のオリエンテーションでマスクの着用を促す。	
教育者	社会福祉協議会職員	

都道府県名 宮城県

市町村名 東松島市

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	随時	
対象人数	不特定多数	
うちマスク 持参者数		
うちマスク 配布者数		
教育内容	1. 活動前の注意喚起 *ブログで情報発信 持参物(作業用)に防塵マスクの必要性を明示 *正しい防塵マスクの装着方法を掲載(環境省のページにリンク) 2. 受付時やオリエンテーションの際に説明	
教育者	生活復興支援センタースタッフ	

2. 今後の実施計画

実施月日	随時	
教育内容	● ブログで発信 ● 受付時やオリエンテーションの際に説明	
教育者	生活復興支援センタースタッフ	

都道府県名 宮城県

市町村名 松島町

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	随時	
対象人数		
うちマスク 持参者数		
うちマスク 配布者数		
教育内容	<ul style="list-style-type: none">● 作業時のマスク着用● マスク不足した場合は配布	
教育者	町職員	

2. 今後の実施計画

実施月日		
教育内容		
教育者		

都道府県名 宮城県

市町村名 七が浜町

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	3月24日～毎日継続
対象人数	100名～150名
うちマスク 持参者数	80名～100名
うちマスク 配布者数	20名～50名
教育内容	<ul style="list-style-type: none">● 舞い上がる粉塵にはヘドロなどが混じっており、ウィルス等が混入している危険性があること。● 被災家屋の瓦礫撤去時、解体作業時などにはアスベストが飛散する可能性が高いこと。● 別紙水害ボランティア作業マニュアルをA0版に拡大印刷し、ボランティアさんの待機場所の目につきやすい場所に掲示しております。また、毎朝マッチングの前に全体朝礼を行い、服装や装備品に関する徹底を促しております。● 現場リーダーに、出発前確認としてマスク等の装備品のチェックを行っていただき、不備の場合は貸し出しするなど徹底しております。
教育者	七が浜町社会福祉協議会職員

2. 今後の実施計画

実施月日	ボランティアセンター閉所まで毎日
教育内容	上記内容を継続します
教育者	七が浜町社会福祉協議会職員

水害作業

水害対策

帽子 or
ヘルメット

ゴーグル
(209外作業用)
は必須!!

サニタリー

安全靴

厚手長靴
J's手袋

安全メガネ
(非保護メガネ)
非を明記してください

水筒

目ヤミの拭き取り
水がバラスト!!

長靴
長靴は必ず着よう

防護マスク
おまけ

長袖

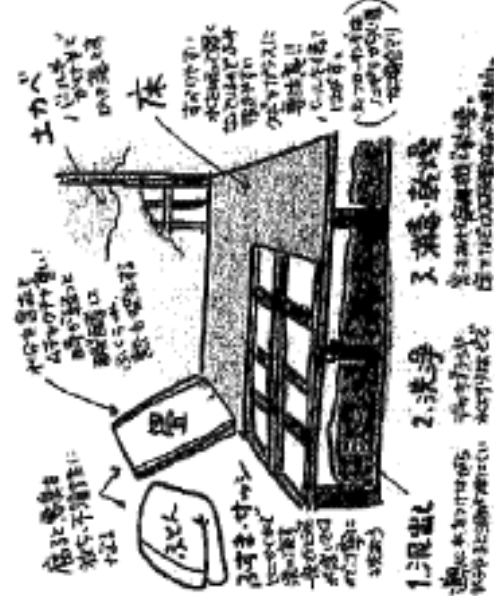
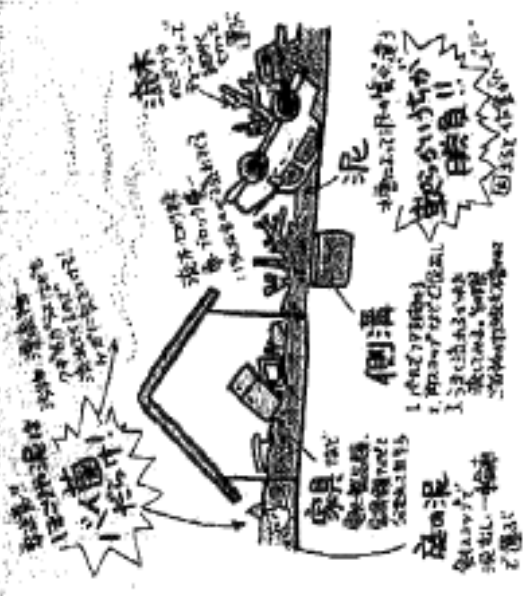
ヘルメット
ヘルメットは必ず着用
ヘルメットは必ず着用

雨天(台風時)
梅雨(台風時)
シタレセント
貴重品

長ズボン

用意するものでも、家族にとつては大切な思い出のつまった物ばかりです。取り扱いには十分配慮しましょう。

被災された方の気持と作業に寄り添うお話をさせていただきます。/ 資料と写真も取り交わして/ 精神的なケアも行ってください



その場... 水は危険な作業をする前に... 水は危険な作業をする前に... 水は危険な作業をする前に...

都道府県名 宮城県
市町村名 利府町

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日		
対象人数		
うちマスク 持参者数		
うちマスク 配布者数		
教育内容	ボランティア活動においては、その都度マスクを提供し、着用の徹底を図るとともに、活動中の安全確保を図るよう注意喚起しています。	
教育者		

2. 今後の実施計画

実施月日			
教育内容			
教育者			

都道府県名 宮城県

市町村名 岩沼市

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	3月12日から	
対象人数	1回あたり20名	
うちマスク 持参者数	10名	
うちマスク 配布者数	10名	
教育内容	アスベストについて ● 危険性 ● マスク着用義務と着用方法	
教育者	市ボランティアセンター職員	

2. 今後の実施計画

実施月日	10月17日	10月18日
教育内容	作業内容により石綿曝露の恐れがあるものについて危険性とマスク着用義務と着用方法	同左
教育者	市復興センター職員	同左

都道府県名 宮城県

市町村名 亶理町

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	5月10日	
対象人数	25人	
うちマスク 持参者数	0	
うちマスク 配布者数	25人	
教育内容	N95マスクの装着の仕方 について	センター職員が研修を受け、毎朝の オリエンテーション時にボランテ ィアに指導した。家屋の泥だしや片 付けについては8月13日でほぼ終了 している。特にアスベストに特化し た教育は行っていないが、がれきの 粉塵等による健康被害が報道され ていたため、マスク着用を奨励し た。
教育者	メーカー職員	

2. 今後の実施計画

実施月日		
教育内容		
教育者		

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	随時
対象人数	(状況) ●各ボランティアセンターにおいてオリエンテーションを実施し、防じん対策を説明。
うちマスク 持参者数	
うちマスク 配布者数	
教育内容	(参考) ○なお、ホームページで防じんマスクの持参を呼びかけているが、持参していない場合はボランティアセンターで所有している防じんマスクを配布（場合によってはサージカルマスク）した。 ○福島県内では、放射性物質対策として防じんマスクを持参してきているボランティアが多く見られた。
教育者	ボランティアセンター職員

2. 今後の実施計画

実施月日	随時
教育内容	(計画) ●現在、がれきの撤去等の作業に関するボランティア活動はほとんど無くなってきている（南相馬市、いわき市では家具の片づけ、引っ越し、土だしを行っている）が、該当するボランティア活動がある場合は、従来と同様に防じん対策に関する説明を実施する。
教育者	ボランティアセンター職員

都道府県名 福島県
市町村名 いわき市

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	6月1日～9月24日
対象人数	21,946名
うちマスク 持参者数	—
うちマスク 配布者数	21,946名
教育内容	防じんマスクの配付
教育者	いわき市社会福祉協議会職員

2. 今後の実施計画

実施月日	毎週木・金・土曜日 防じんマスクの配付
教育内容	
教育者	いわき市社会福祉協議会職員

都道府県名 茨城県

市町村名 ひたちなか市

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	7月16日	7月17日	7月23日	7月24日	9月23日
対象人数	40名	40名	40名	40名	23名
うちマスク 持参者数	36名	36名	36名	36名	0名
うちマスク 配布者数	4名	4名	4名	4名	23名
教育内容	市・社協で石巻市への ボランティアバス運行 防塵マスクについて ・災害ボランティアの 活動時の準備物として 持参するように指導。 ・持参しなかった者に 配布し、着用を指導。	7月16日 と同様	7月16日 と同様	7月16日 と同様	「チームひたちなか」 石巻市で災害ボランテ ィアとして活動 (防塵マスク配布を周知) 防塵マスクについて ・作業時に防塵用マス クを配布し、正しい 着用について指導。
教育者	市職員・社協職員	同左	同左	同左	社協職員

2. 今後の実施計画

実施月日	未定		
教育内容			
教育者			

都道府県名 茨城県

市町村名 下妻市

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	4月～8月	
対象人数	41名	
うちマスク 持参者数	—	
うちマスク 配布者数	—	
教育内容	防塵マスク持参等指導	
教育者	市社協職員	

2. 今後の実施計画

実施月日		
教育内容	特になし	
教育者		

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	随時	
対象人数		
うちマスク 持参者数		
うちマスク 配布者数	延べ100枚	
教育内容	アスベストの危険性及びマスクの着用方法等について、説明を実施。	
教育者	市職員	

2. 今後の実施計画

実施月日		
教育内容	現在、災害ボランティアの受入れがない状態であるため、必要に応じて実施	
教育者	市職員	

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	4～7月		
対象人数	166		
うちマスク 持参者数	166		
うちマスク 配布者数	0		
教育内容	(ボランティア活動前日までに、防じんマスクの重要性を周知徹底し、全員がマスクを持参。)		
教育者	—		

2. 今後の実施計画

実施月日	—		
教育内容	(7月以降、ボランティアの派遣は行っていないため実施予定なし。)		
教育者	—		

都道府県名 千葉県
市町村名 千葉市

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	5月2日～ 9月15日	9月3, 4, 5日 (事前説明会)
対象人数	75名(派遣人数)	90名(派遣人数)
うちマスク 持参者数	不明	不明
うちマスク 配布者数	不明	不明
教育内容	派遣職員に配付した文書中に、「粉じん等から身を守るために配布するマスク等を着用すること」を記載(ただし、配布マスクは感染症予防のサージカルマスク)	災害派遣事前説明会において、防じんマスクまたはそれに代わるものの持参を呼びかけ
教育者	市職員 (消防局を除く市職員派遣)	社会福祉法人 千葉市社会福祉協議会・千葉市ボランティアセンター

※いずれも、アスベストではなく粉じん等から身を守るための教育。

2. 今後の実施計画

実施月日	9月30日(予定)
教育内容	市より千葉市ボランティアセンターに対して、平成23年9月15日付け環水大発第110915001号「ボランティア等に対する石綿ばく露防止教育の実施について」の写しとともにマスクの付け方(出典:環境省ホームページ)を送付する。
教育者	

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	随 時	5月15日
対象人数		
うちマスク 持参者数		
うちマスク 配布者数		
教育内容	市の外郭団体であるボランティアセンターでボランティアの登録・保険加入時に、文書にて防じんマスクの正しい着用方法や種類について説明を行っている。	市民活動センターの広報誌（5月15日号）の紙面において、ボランティアの心構えの中に防じんマスクの用意着用について掲載した。
教育者	ボランティアセンター職員	

2. 今後の実施計画

実施月日	随 時		
教育内容	ボランティアセンターにおいて、ボランティアの登録・保険加入時に、防じんマスクの正しい着用方法や種類について文書で説明を行っていく。		
教育者	ボランティアセンター職員		

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	5/2～9/27	
対象人数	140件	
うちマスク 持参者数	0件	
うちマスク 配布者数	0件	
教育内容	災害派遣従事車両証明書発行時に、申請者に対して通知文書をもとに防塵マスク携行着用の呼び掛けを行った。	
教育者	市職員	

2. 今後の実施計画

実施月日	随時	
教育内容	災害派遣従事車両証明書申請に合わせて、随時呼び掛けをしていく。	
教育者	市職員	

都道府県名 千葉県

市町村名 旭市

ボランティアに対する「石綿ばく露防止教育」の実施状況について

1. これまでの実施状況

実施月日	3月15日～31日	7月8日
対象人数	延べ7,608名	20名
うちマスク 持参者数		
うちマスク 配布者数		
教育内容	防じん、感染症予防のためにマスクを着用するよう指示すると共に、マスクを持っていない者にはサージカルマスクを配布した。 なお、災害ボランティアの受入れに関しては3月31日を以って終了している。	第1次モニタリング調査で、作業場でアスベストが検出されたのを受け、各現場責任者等に対し、工程会議において防塵マスクの着用及びアスベストを含有すると思われる建材の分別を徹底するよう改めて周知した。
教育者	社会福祉協議会	市職員

2. 今後の実施計画

実施月日		
教育内容		
教育者		